

8/22
武藤氏

武藤氏への対応 首相「党に一任」

安倍晋三首相は安全保障関連法案に関する二十一日の参院特別委員会で、未公開株をめぐる金銭トラブルの発覚で自民党を離党した武藤貴也衆院議員(三〇)＝滋賀4区＝に対し「国会議員は国民の信頼を損なうことのないよう常に襟を正さなければならぬ。政治家本人がしっかりと説明責任を果たすべきだ」と述べた。蓮舫氏(民主)が首相に、自民党総裁として事実関係を調査し、議員辞職を勧告するべきだと促したのに対しては「一議員の行動についての判

辞職勧告「三権分立の関係から不適切」

断は党に任せている。谷垣禎一幹事長が責任を持って対応している」と調査や処分への対応は党執行部に委ねる考えを示した。武藤氏の進退に関しては「行政府の長の私が立法院の議員に辞めろというのは、三権分立の関係から適切ではない」と述べた。

一方、公明党の井上義久幹事長は記者会見で「本人が説明責任を果たせないなら議員としての資格にも影響がある」と、説明ができなければ議員辞職すべきだとの考えを示した。自民党にも「武藤氏を衆院選で公認したのだから、その判断が適切だったかどうかを国民に説明する方がいい」と求めた。